

満福通信

まんぶくつうしん

台風19号以降も台風や温帯低気圧がもたらした大雨による災害が続きました。想定外のことが起こり得る災害ゆえに、どんな備えをしたら良いのかいつも悩みます。自己の経験による学びだけでなく、他者の経験を聞いてそれらを想定内の災害と認識し、今後も備えを重ねたいと思っています。

「どんな会社になりたいですか？」

このとてもシンプルな質問にあなたは即答できますか？業績の良い会社、100年続くいい会社、従業員がイキイキとして働きたいと感じている会社、回答は様々あるでしょう。実際、「財務的業績」「長寿」「働きがい」の3条件は「いい会社」の3条件と言われています。経営者であれば「いい会社」にしたいと思いますが、いい会社には、①時代の変化に適応するために自らを変革させている、②人を尊重し、人の能力を十分に活かすような経営を行っている、③長期的な

視点のもと、経営が行われている、④社会の中での存在意義を意識し、社会への貢献を行っている、という4つの特徴があるそうです。ところで、社長一人がどんなにいい会社しようと思ってもそれを社員に浸透させることができなければいい会社作りはできません。会社という組織では、その構成員の複数の想念が入り混じった総和が、現実化しています。Aさんのあんな想いやBさんのこんな想いも、全てが複雑に折り重なって作られています。しかし、弱き

良き想いが、強き悪き想いに取り込まれてしまうことがあります。前に進もうとする想いが、後ろに進もうとする想いに相殺されてしまうこともあります。だから、組織では想いを一つにすべくベクトルを合わせる意図が必要不可欠です。一つひとつの想いは小さくとも、同じベクトルを向く想いが束になったら奇跡も起こり得ます。「どんな会社にしたですか？」この質問に回答することは、一歩前に進む為の社長の想いの表明だと思えます。（太）

第1回ブカツを開催しました

第1回目のブカツを無事に開催することができました。記念すべき初回のテーマは、「自社（自分）が地域に対してできること」でした。NBAの地域貢献の具体例や、世界で持続可能な開発目標として標榜されているSDGsを紹介。これらをヒントに地域の課題にはどんなものがあるか、それを自分たちがどう解決していけるだろうか、ということを議論しました。サステナブルな経営を実現するためには社会的責任を果たすという意味においても地域課題への取り組みは無視することはできません。地域課題の解決に取り組むことは、企業の将来的な存在意義や存在価値を向上するのに有効です。お膝元である地域に目を向けたあとは、近視眼的にならない為に俯瞰的な視点も持ちたいものです。そんな思いから、12月のブカツでは「域外・海外の需要を考える」というテーマを設定しました。その前に次回の11月のブカツでは、10月に続いた台風の被害に関連して、「災害への備え」を挟みたいと思います。サステナブルな経営に必須のBCP（事業継続計画）にも触れつつ議論を深めましょう。参加希望の方は別紙案内を御覧ください。（太）

ようこそ太仁亭へ！

ラジオで大根が話題になっていました。二種類の大根の煮物を試食したラジオパーソナリティの感想は、片方は安い大根でも片方は高い大根ではないかというもの。しかし、その大根はどちらも同じ大根で調理法も同じだったのです。違いは、高い大根と言われた方は皮を厚め（5ミリ）

に剥いたことでした。大根の皮は厚めに剥くというのは鉄則ですが、なんとも勿体なくてこれまでは実践できずにいました。けれど、パーソナリティの方のあまりの驚きのように早速厚く剥いて煮てみることに。結果は上々。番頭さんもお豆ちゃんも上品なお味をとても喜んでいました。（仁）

日本刀から生まれた言葉達-8「相槌を打つ」

刀を打つ鍛冶仕事において、鍛冶屋の師匠と弟子2人の合わせて3人が順番に槌（ハンマー）を打って鋼を鍛える際に、師匠が打つ合間に弟子が打つ槌を「相槌」と呼んだそうです。これが転じて相手の話す間に頷くことを「相槌を打つ」と言うようになりました。また、3人が順番に槌を打ち下ろす音がリズムカルでなく、拍子が抜けるようなことがあったとき、「トン」

「チン」「カン」と無様に聞こえたことから、この擬音が転じて「間抜けな様子」「辻褄が合わないこと」を頓珍漢と言うようになったそうです。コミュニケーション上手は相槌上手とも言われますが、上手な相槌のコツは相手の使った言葉を返すことだそう。こうすることで「自分の話をきちんと聞いてくれている」という安心感を与えることができるのか。（太）

今月のお豆ちゃん

今年の運動会はどんな事をやるのか聞いていなかったのが、始まってびっくり。ほぼ全ての競技や演目に参加しました。綱引き、かけっこ、サーキット、台風の目、応援団、鬼ごっこ、ダンス、球入れ、パラバルーン等々。そして、パラバルーンでは感涙。昨年のダンスでは仁王立ちで立ち尽くす子もいたのに、年中さん全員で音楽や笛に合わせて素晴らしい演技を見せてくれたのです。心に残る1日でした。（仁）



棒手裏剣

台風やそれに伴う雨で、秋晴れの空を楽しめる日がとても少ない10月でした。見出しの写真は9月にピクニックを楽しんだ時のもの。運良く保育園のお友達に出会って、一緒に遊ぶことが出来たのです。番頭さんは落ちていた枝で棒手裏剣を作ります。「お絵描きロード」なるスペースで貸し出しているチョークで色を塗ったのはお豆ちゃん。かっこいいはずの手裏剣が可愛い色鉛筆風になりました。（仁）

編集者：後藤紅仁子

kuniko-goto@ccore.co.jp
発行日：2019.11.6 霜降（そうこう）
楓蔦黄（もみじつたきばむ）
発行所：株式会社コンセプト・コア
☎192-0373
八王子市上柚木 2-63-10
TEL/FAX 042-697-7473
https://ccore.co.jp/
過去号：ウェブサイト1からご覧頂けます。